EJP(Enlightened Justice Procedure:賢明な正義のための手順)

ハリーパルマー

竹と樫は生き残るために２つの違った方法をとります。樫がとるのは、風の力に負けないよう、とても堅く強い木に成長する方法です。竹がとるのは、しなやかであり続け、風の力になびくという方法です。この譬え（たとえ）の中での風は、実は変化の力を象徴しています。樫はその堅固さで変化に抵抗します。竹はそのしなやかさで、変化に柔軟に対応します。

数年前、フロリダ州南部を巨大なハリケーンが縦断しました。ハリケーン「アンドリュー」です。樹木は根こそぎにされ、家屋は吹き飛ばされました。ニュースのカメラはその地域一帯の壊滅的な被害状況を映し出しました。椰子や、しゅろ、そして樫の木は残さず倒されていましたが、竹の小さな一群は生き残っている様子がカメラに映されました。樫の木は、そのがっしりした強さをもってしても、生き残れませんでした。竹は生き残りました。柔軟な強さが生き残ったのです。柔軟でない強さは滅びました。これは教訓です。

ものごとが急速に変化する世の中では、生き残るための方法としては力よりも柔軟性の方が有効です。

個人の意識もそうした樫の特質か竹の特質のどちらかを取り込むことがあります。意識は空っぽで柔軟にもなれますし、硬く頑固にもなれます。多くの場合、意識は始めは柔軟ですが、時が経つにつれて硬化するのです。

何が意識を硬化させ、柔軟でない視点の中に押し込めるのでしょう？それは世の中がもたらす苦しみのせいだと言う人がいます。しかしどんなに世の中を変えたところで、あなたの意識がより柔軟になることはありません。では柔軟でない視点の原因となるものとは一体何なのでしょう？それには２つあります：「秘密にされている罪(Transgression-Kept-Secret：TKS)」と「隠された意図（Hidden Agenda)」です。

「秘密にされている罪」[注1]とは、あなたが特定の人に知られたくないと思っている損害を与えるような行いや、逆にやらないことで損害を与えるような行いのことです。罪の例には、法律を破る、合意を破る、社会規範に反する、あるいは自分自身の価値観に反することがあげられます。それはあなたが守ると約束した何かにダメージを与えているのです。「秘密にされている罪」の例としては、銀行強盗、不倫、公共の建物に落書きをする、あるいはあなた自身の良識に反するような行動をとることなどです。犯しうる罪にはたくさんのものがありますが、聖者にならない限りは、ただうっかりにせよ、時々は罪を犯すものです。罪が秘密にされていない場合、それは過ちと呼ばれます。

これまで一度も罪を犯したことが無いとあなたに言う人がいたら、あなたが話している相手は聖人か嘘つきのどちらかです。人間は過ちを犯すものです。そうできているのです。それによって学ぶのです。人間の知識は過ちによる産物です。過ちが秘密にされたり、(「隠された意図」のように)わざと行われた場合にだけ、柔軟でない視点へとつながります。

「隠された意図」とは、実は利己的な気持ちから罪を犯す、あるいは犯し続けるための戦略です。これは意図的に損害を与えるような行動です。モラリストが悪と呼び、仏教徒がカルマをもたらす行いと呼ぶ現象です。

「秘密にされている罪」が秘密にされているのは、恥の気持ちや非難や罰の恐れからです。「隠された意図」が秘密にされているのは、その人が罪を犯すつもりか、罪を繰り返すつもりだからです。恥の気持ちはたとえあるにせよ、「隠された意図」にはほとんど含まれません。逆に多くの場合存在するのは、犯罪者の誇りとさえ呼べるものです。「秘密にされている罪」と「隠された意図」の主な違いは、後者ではダメージとなる行いはゆっくりとしか認識されないことです。「隠された意図」は大抵、人道主義的動機であるかのような見せかけの正義のアイデンティティーの裏に隠されています。

これらが柔軟でない視点や、意識の硬化、そしてあるウィザードが「ゾンビ意識」と上手い表現をした状態を引き起こす主な要素です。それはどうしたら治せるのでしょうか？

重要なことは罪をどう扱うかであって、なぜやったかではありません。

注１：誰かに「ティック」があるとスターズ・エッジのトレーナーが言うのを耳にしたら、それは英語でティックと発音される血を吸う虫のダニ(ticks)のことを言っているのではありません。トレーナーが言っているのは「秘密にされている罪」(Transgression-Kept-Secret)の頭文字を取ったTKS（ティックと発音）のことです。

秘密にされた罪（Transgression Kept Secret:TKS＝「ティックス」と発音）

人が罪を犯すと先ず聞かれるのは大抵、「なぜやったの？なぜ？なぜ？なぜ？」です。これは全く見当違いな質問です。本当のところは誰にも答えることができません。これは自分がなぜ源でないかという説明をでっち上げるよう頼んでいることになります「ウソを言いなさい。それが聞きたい」と。

説明をしたところで何も変わりません。説明をしたところで誰も何も学びません。そして説明は、たとえそれがどんなに素晴らしく聞こえたとしても、再びやるのを防止したりはしません。「なぜ？」という問いには、「母が私を産んだから」とでも答えた方が良いかもしれません。

あなたが罪を秘密にする最大の理由がわかりますか？それはあなたが誰かに「なぜやったの？」と聞かれはしないかと恐れているからです。

そしてあなたは正直言って、本当に見当がつかないのです。そこでもし聞かれたら、最初の罪を説明するためにウソをつく、という2つ目の罪を犯さなければならなくなります。

社会的に何が「秘密にされている罪」の数を増やしているのか知りたいですか？「なぜやったか？」に社会が焦点をあてるようになっているからです。そしてホワイト・セラピー[注2]の扉を開くことになります。

一方、「隠された意図」の増加は、マスコミや教育制度が目覚めよりも教え込むことに焦点を当てている兆候です。「隠された意図」の根本原因はいつも、利己的、不寛容、あるいは無責任な行動を容認するような何らかの社会的な教え込みです。

そろそろ安心したいですか？実はあなたが何をしたか、そしてなぜしたかは関係ないのです。ただそれを正して、前に進みましょう。

ここで一番重要なポイントにきました。

もし私の言った残り全てを締め出しても、これだけは覚えておいてください。重要なのは罪をどう扱うかであって、なぜやったかではないのです。

罪を扱う際の間違ったやり方は、それを隠したり、正当化したり、否定したりすることです。これらの行動（隠す、正当化する、否定する）は意識を硬化させて、柔軟でないアイデンティティーの中に押し込めてしまいます。硬化した意識は一方的な見方しかできないような現実を投影します。次のプライマリー[注3]をよく聞いてください。「私はそれについて何も知らない」「私はやってない」「彼らにやらされた」あなたはこんなプライマリーを創りたいですか？

こうした信念を創るのは、まるであなたのこころにコンクリートを流し込むようなものです。

ですからあなたの意識を硬化させたのが誰か、今わかったでしょう。自分の罪を秘密にしておくために創ったプライマリーで、あなたがしたのです。「私は決して話さない！」と。あなたの表現の自由を制限するには、永遠というのはあまりに長い時間です。

もしあなたが罪を隠したり、正当化したり、否定したりすると、役に立つ学びはほとんどありませんが、罪を扱えば人生で最も重要な生きた学びに到達できるのです。それは勇気、思慮深さ、寛大さ、慈しみ、許し、つまり知恵です。多くの場合罪を扱うことから得られる学びは、純粋に博愛的なことに力をそそぐ原動力になります。

注2）ホワイ・セラピーは、なぜ人が特定の行動をとるのかを説明することに関心を持ちます。このようなセラピーは言葉による学びで、いずれは個人の自由意志をあらかじめ決まっている因果関係のドラマの中でわからなくしてしまうのです。

注3）プライマリー：ある現実を創りだそうという十分な意図や努力を伴う創造、または意志伝達

罪を扱うための４つのステップ

１）　誠実な心のこもった悔い改め：　自分の行いを悔いていて（したことがばれたという理由だけで後悔しているというのではなく）、二度とやらないように最大限努力する。

２）　告白：誰に向かって告白のことばを言うかは問題ではありません。告白とは、実は責任を取るという行動なのです。それは源に戻り、全ての正当化をやめることです。「私がやりました」と。

３）　償い又は和解：償いをするということは、罪を埋め合わせるために自ら犠牲をはらうことです。与えたダメージに相当する犠牲だと感じ、満足する必要があるのは＜あなた＞です。公平な償いが何かについて意見が分かれる場合は、中立な人に相談しましょう。グループ内での地位を回復するために償いが行われる場合には、そのグループが採用する基準やメンバー全員の期待を満足する必要があります。

４）　自分の直感と再び整合する：正当化する視点や守ろうとするアイデンティティー（自分がどうあらねばならないか）から来るプレッシャーが十分に和らぐと、穏やかになりリラックスしてきます。この静かな状態の中で、あなたのよろこびやさらなる成長に向かう方向が直感的にわかります。もしそれが自分の安全地帯を離れることだとしても、あなたはそちらに向かうべきです。

以上がＥＪＰのステップです。自分個人の誠実さを取り戻したい人にだけ適用できます。これを他人に合法的に強要することはできません。これは機会の贈り物なのです。それが行われるべきかどうか、そしてどのような形で行われるべきかは、その人自身が何を正しいと思うかによって決定されます。心から行われれば、幸せな人生を取り戻すことができます。

ここには罰は入らないことに注目してください。正直な人、つまり自分のスピリチュアルな発達や目覚めに誠実に取り組む人は、自分の罪を正すのに罰を必要としません。

自分の力を奪う「秘密にされている罪」の側面を完全に扱うことで得られる自由の力を一度経験すれば、二度と罪を隠したりしないでしょう。自分の身体にわざわざ手かせ足かせを付けて身動きできない状態にしたりはしないのなら、どうして自分のこころを発見される恐怖で身動きのとれない状態にしたりするでしょうか？

以上がＥＪＰのステップです。自分個人の誠実さを取り戻したい人にだけ適用できます。これを他人に合法的に強要することはできません。これは機会の贈り物なのです。

ステップは簡単です：　１）本当に申し訳ありません。２）何の弁解もありません、私がやりました。３）私の行いによるダメージを修復することを最優先します。４）私は今後、自分の直感の導きに責任を持って従います。

よくある質問：私がダメージを与えた相手に対して修復をすることが最善だとはわかっていますが、その人が既に亡くなってしまっている場合はどうしたらよいのでしょうか？

答え：その場合でも純粋に博愛的な奉仕を行うことによって償うことができます。他人の役に立ちましょう。全ての生命はつながっています。あなたの償いが済んだ時

には直感的にわかるでしょう。自分の直感の導きを取り違えたり、認識できなかったりする人は、ステップの1、2、3がまだ完了していません。そういう人は自分で自分のスピリチュアルな成長を制限しているのです。

「隠された意図」

「隠された意図」には、他人を犠牲にして私利私欲を満足させたいという欲求から、他者をわざと不幸に陥れようという卑劣な悪意まで様々あります。

概して「隠された意図」が有害であればある程、その人には自らを正すのに必要な羞恥心が欠けています。そうした人は自分の行動を正当化して、人々を混乱に陥れます。彼らが口に出していないことがあまりにも多すぎるため、彼らを理解することは困難です。言っていることと、やっていることが、正反対の場合もあります。

個人や特に集団が何かに着手する場合は、「隠された意図」を持つ不整合な人物を特定し、抑制する手段を持つ必要があります。さもないと計画は妨害されてしまいます。多くの企業の倒産はそのもとをたどれば、「隠された意図」を持って動いていた一人の人間に行き着くのです。

グループの活動を指揮する責任者である場合、「隠された意図」を持つ人を容認するのは間違った対処法です。これは寛大さが状況を悪化させるという人生でも数少ないケースです。「隠された意図」を持つ人には立ち向かい、整合するための短いチャンスを与えるべきです。さもなければそのグループから去るように促すべきです。去ることを渋る場合には、グループはその人の意図とその意図がもたらす結果とを率直に公然と問いただす必要があります。

「隠された意図」は、その人が完全に自らの「秘密にされている罪」を扱うことが出来る場合に限り、解決することができます。

もし自分に「隠された意図」があると気づいたら、一番良いのはその意図を、オープンかつ正直に、グループが言明している計画の目的・方法・価値と合致させることです。これにはある程度の議論や、場合によってはある程度の妥協が必要となりますし、また幅広い結果を予期し全ての視点を理解するのに十分な精神的柔軟さが求められます。視点・目的・目標の差が集団にとって有害となるのは、それが隠されている場合だけです。多様性はかえって集団を強化することにもなるのですが、それは隠れて作用するのではなく共通の認識でなければならないのです。

行動の結果

友人と2人で色々なことについておしゃべりをしたことがありますか？２人とも柔軟です。秘密を共有し、罪についても話せ、そこには理解と正直さがあります。あら探し的な価値判断は全くありません。プロフェッショナル・コースに見られる、ありのままの感じにとてもよく似ています。

突然、友人のお母さんが部屋に入ってきます。あなたの友人はお母さんに「秘密にされている罪」がたくさんあります。（私たちは皆そうではありませんか？）何が起こるでしょう？突然、会話がとても用心深くなります。友人は柔軟な意識から固定したアイデンティティーに切り替わったのです。お母さんが何か言うと、友人はとても批判的です。「もう、お母さん、それはお母さんの意見に過ぎない！そういう話は聞きたくない。」

ここで友人が思わず創っているプライマリーに注目しましょう：「それはお母さんの意見に過ぎない」と「そういう話は聞きたくない」です。この２つのプライマリーがどんな経験を創りだすか想像できますか？

あなたの友人が本当に言いたいのは「お母さん、あっちに行って。お母さんが居ると正直になれない」ということです。しかし真相に近いこれでさえも、正直になる自由の源をお母さんの宇宙に置いているわけで、自分の力を奪う視点なのです。

自分がどう感じるかについて他人を非難している時、あなたは自分の源を相手に譲り渡しているのです。あなたのプライマリーを創ることを相手に許しているのです。罪を誰かに秘密にしておかなければならないと感じる時、あなたはその人に源を譲り渡しているのです。[注4]

そこでもし友人のお母さんが部屋を出て行かないと、友人の方が出て行くことになります。なぜでしょう？自分が正直になることを恐れている相手の近くにいるのは居心地が悪いからです。相手があなたの源を盗んでいるように見えて、実はあなたの方が相手に源を差し出しているのです。

「秘密にされている罪（ＴＫＳ）」が多ければ多い程、その人の意識は柔軟さを失い、選択肢が少なくなります。秘密が意識を硬化させ、凝り固まった意見や信念を持った見せかけの正義のアイデンティティーの中へと押し込めます。そしてこれらの信念がその人の望むような経験を創りだすことはほとんどありません。この固定したアイデンティティーは、それを守り正当化するエゴを創りだします。一度そうなると、意識のとても限られた範囲以外は探究できなくなるようになります。実際の出来事を思い出すことが苦痛になり、そのため偽の過去を創りだします。思い出す代わりに想像したり投影したりするのです。そうしておきながら、全てのセカンダリー[注5]は一体どこからやってくるのだろうと不思議がるのです。

ＴＫＳがある人は、価値判断を止めるのに苦労します。そのためその人の人生の中にはＣＨＰ[注6]に反応しない領域が生まれます。ある経験を完全に経験することを嫌がって、それに価値判断なしに名札をつけることが出来ないのです。消滅させる代わりに（まるで樫の木の様に）抵抗し、死が吹き飛ばしてくれるのを待っているのです。リサーフェシングからの引用：「不正直さが自分に与える苦しみほど、つらい罰や屈辱はありません」

ＴＫＳは人の自由を奪いますが、これは他人と完全に正直に接することができないからです。罰や恥、そして拒絶といった結果を恐れているのです。ですから自分の源を明け渡してしまいます。そしてこの全ては自分の犯した罪を過ちとして扱い、改め、そこから学ぶ代わりに、罪を隠そうと決めたことから始まっているのです。

批判の下にあるものを見る

ここでマスターによって何度も繰り返されているシナリオをご紹介しましょう。第一に彼らはスターズ・エッジとの整合を破

この妥協のない自己に対する正直さは批判的に見られていた揺るぎない世界を、可能性に満ちた柔軟な世界へと変化させます。「秘密にされている罪」から自由になるのは気持ちの良いことです。

注４）この結果として、もし誰かが自分の気分をあなたのせいだと非難したら、ただその非難を受け止めましょう。そうすることであなたはより力を手に入れ、相手は力を失います。もしその人が自分の気分についてあなたを非難し続けたら、その人をあなたの奴隷にしてしまいましょう。（最後の部分はジョークです）

注５）セカンダリー：１）意図する創造によって誘発される、意図しない創造、２）プライマリーがどのように受け取られているか、受け取られたか、あるいはこれから受け取られるかを気にする努力や意図、３）意志伝達を起こす側あるいは受け取る側を、監視したり、修正したりする努力、４）意識的に創造されているもの意外に存在しているもの、５）目的にそぐわない努力

アバターはウソから始まることのない真実への道です。

るような罪を犯し、それを秘密にすることに決めます。それは愚かな決断です。気づいている5万人ものアバター達から秘密を守ろうとするのがどれぐらい大変なことかわかりますか？

第二に秘密にしていることで、他のマスターやアバターたちの周りにいることが居心地悪くなります。そこで彼らはネットワークから離れていきます。「秘密にされている罪」のことは都合よく忘れます。自分が去ることになった本当の理由を、自分からも隠しているのです。そして自分の動機を誤解するにつれて、人生は急速に悪い方向へ向かいます。（これは「意図的に生きる」の本の第11章「正直さについての内緒話」をより深く洞察したものです。）

第三に、彼らはなぜ去ったのかについて多くのもっともらしい理由や説明を考え出しますが、それのどれもがＴＫＳとは無関係です。そうした元マスターのスターズ・エッジやアバターやハリー・パルマーについての意見は断定的な凝り固まった意見となって、柔軟性に欠ける部分を意識に作り出します。彼らは自分の経験を安心して探究し、人生の他の部分と統合することができません。そしてアバターの人たちがどんなにひどいか、ハリーがどんなに意地悪か、あるいはスターズ・エッジがどんなに不公平かを語ることによって、自分の誠意の無さやコミットメントの無さを正当化します。例えば「あいつらの関心はお金だけなんだ」とか「どうしてあいつらは何でもかんでも秘密にしようとするんだ」とか「あいつらはただ皆の人生を牛耳ろうとしているだけなんだ」というように。注目すべきことにそうした批判は、ほとんど必ずと言ってよい程彼ら自身のＴＫＳの内容を形を変えて告白しているのです。

彼らの批判の裏にある論理はこうです：スターズ・エッジの地位や重要性を減らすことができれば、自分が犯した罪によるダメージの重大さも減る、つまり聖人から１ドルを盗むよりも、別の泥棒から１ドル盗む方がずっと罪が軽いというわけです。そこで彼らはスターズ・エッジが本当は不正直な組織だという信念を創りだし、それによって自分の罪をできるだけ小さなものにするのです。実際、もしスターズ・エッジが倒産してつぶれ、完全に消えてしまったとしたら、彼らはとても喜んで満足するでしょう。彼らにはただ立ち去って経験を味わい愛でるということができないのです。ＴＫＳがあるせいで分離し批判をするのです。こうした人の大半は争いや復讐を非常に好み、スターズ・エッジ（又はその他の批判の対象）に批判的な人であれば誰とでもすぐ団結します。そしてその全ての根底には、「秘密にされている罪」によって生みだされたこのような硬化した意識や、凝り固まった見せかけの正義の視点があります。最悪のケースでは、この見せかけの正義の視点に凝り固まるあまり、その動機が「隠された意図」となり、それがあらゆるウソや、ごまかし、破壊的行為を正当化するようになります。誰かあるいは何かに対して助けにならない批判や、頼まれもしない批判をしている人を見たら、その人は自分自身の罪をできるだけ軽くしようと運動しているのです。

１、２、３です。秘密にされている罪、分離、そして批判。１、２、３です。これは明らかな人の摂理です。このパターンを理解すれば、人の行動の神秘が解き明かされるだけでなく、社会全体の衰退についての洞察が得られることでしょう。

万一こうした批判的な元マスターに遭遇した場合には、彼らの注意を批判からそらせ、彼らが批判している対象に犯した彼らの罪へと話を持っていきましょう。「あなたは何をしたのですか？」と。あなたはそうした人の大部分がとても簡単に救えることに驚くことでしょう。涙とばつの悪い告白の数分間を過ごした後で、突然彼らの人生が軌道に戻ります。彼らは自由になるのです。柔軟さを取り戻します。これはちょっとした奇跡です。(注７)

陽はのぼる

「秘密にされている罪」を扱うことのゴールは、自分自身に完全に正直になることです。(注８) これは自分自身の意見や、信念が正しいとか間違っているとかについて柔軟になるということです。この妥協のない自己に対する正直さは、批判的に見られていた頑丈な世界を、可能性に満ちた柔軟な世界へと変化させます。ＴＫＳから自由になるのは気持ちの良いことです。

エピローグ

過ちはアダムとイブが知識の木のリンゴを食べて罪を犯したことではありません。過ちはそれを隠そうとしたことでした。

神が現れて誰がリンゴを食べたかたずねた時、アダムはイブを指差しました。イブは蛇を指差しました。蛇はねずみを指差すところでしたが、蛇には指がありませんでした。そこで可哀想な蛇が罪をかぶることになりました。しかし神は騙されませんでした。神は全員を罰したのでした。

もしアダムが一歩前に出て、こう言ったとしたらどうなっていたでしょう？「神様、リンゴを食べて申し訳ありません。私がやりました。私の責任です。私はこれからあなたの庭の世話をし、あなたの御名を讃えるべく私の子供を育てることで償いをすることを、何よりも優先します」

アダムがそう言わなかったために、私たちはお互いにずっとこう言い続けることになりました。「神様、ごめんなさい。神様、ごめんなさい。神様、ごめんなさい」と。

注６）ＣＨＰ：Creation Handling Procedure（創造処理手順）とは、宇宙における気づきの機能を説明する「アバター教材」の高度な練習です。
注７）まれにそうした奇跡の代わりに、感情的に爆発したり精神病的にキレたりする場合があります。ごく一部の人には責任が毒になる場合があることを認識しておきましょう。
注８）「秘密にされている罪」を完全に扱う方法は、ウィザード・コースの初めの部分の課題として学びます。その課題には基本的にこの記事に書かれる４つのステップに加え、罪が明らかになることによる痛みやばつの悪さを消滅させるステップがあります。